

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	商空間計画	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2021年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉竹 徹(自らのデザイン事務所を18年主宰している、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	店舗計画から商業施設に至る様々な商空間計画の基本的な専門知識を習得する。また、この授業内容と関連する『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。 その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. 生活とデザイン	①商業のなりたち ②商業のしくみ ③商業と情報技術
第3回 第4回	3. さまざまな商業のかたち	①暮らしと商業～業種と業態 ②商業のかたち A.物品販売施設 B.飲食サービス施設 C.各種サービス施設 D.複合商業施設 E.展示施設 F.その他の商業のかたち
第5回 第6～7回 第8～9回	4. 店舗のつくり方	①店舗(商業施設)の役割 ②店舗の調査分析 ③店舗戦略
第10回 第11回 第12～13回	5. 物品販売業態の計画演習	①店舗設計上のチェックポイント ②デザインイメージ、エスキース作成 ③プランニング図面作成
第14回 第15回 第16～17回	6. 飲食サービス業態の計画演習	①店舗設計上のチェックポイント ②デザインイメージ、エスキース作成 ③プランニング図面作成

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2021年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	栗山 雅之(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	初めて建築計画を学ぶものにとって、最も身近な生活の器である住宅について、その計画の方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。さらには集合住宅や学校、図書館、美術館、事務所など各種建築物の計画など、人々が社会生活を営むために必要な様々な施設の計画手法や最新事例についても学んでいく。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築計画の基本	ガイダンス
第2・3回	① 建築計画の基本知識	①単位と寸法 ②建築計画の進め方の基本
第4～6回	② 各部および単位空間の計画	①各部の計画 ②単位空間の計画
第7～9回	2. 各種建築物の計画 ① 独立住宅の計画	①独立住宅における平面計画と配置計画の原則 ②独立住宅における諸室の計画 ③独立住宅の平面形式 ④独立住宅の事例 ⑤独立住宅の工法
第10～12回	② 集合住宅の計画	①集合住宅の形式と分類 ②集合住宅の計画上の要点 ③集合住宅の事例 ④集合住宅地の計画
第13回	③ 小学校の計画	①小学校の構成 ②小学校の授業運営方式 ③小学校に関する計画上の要点 ④小学校の実例分析 ⑤小学校の計画に関するその他留意事項 ⑥中学校・高等学校の計画上の要点
第14回	④ 幼稚園・保育所の計画	①幼稚園・保育所の構成 ②幼稚園・保育所の諸室および重要事項 ③幼稚園・保育所の実例分析 ④その他の留意事項
第15回	⑤ 図書館の計画	①図書館の構成 ②図書館の計画に関する最重要事項 ③図書館の諸室および重要事項 ④図書館の実例分析 ⑤図書館の計画に関するその他留意事項
第16・17回	⑥ 美術館の計画	①美術館の構成 ②美術館の計画に関する重要事項 ③美術館の実例分析 ④美術館の計画に関するその他重要事項
第18回	⑦ 劇場の計画	①劇場の構成 ②劇場の分類 ③劇場の計画の基本事項と必要諸室 ④劇場の舞台構成 ⑤劇場の実例分析 ④劇場の計画に関するその他留意事項
第19・20回	⑧ 事務所の計画	①事務所に関する計画上の重要事項 ②事務所の実例分析 ④事務所に関する計画上のその他留意事項
第21・22回	⑨ ホテルの計画	①ホテルの構成 ②ホテルの種類と諸室 ③ホテルの実例分析 ④ホテルに関する計画上のその他留意事項
第23回	⑩ 病院・診療所の計画	①病院・診療所の構成 ②病院の実例分析 ③病院に関する計画上のその他留意事項
第24～26回	⑪ 商業建築の計画	①商業建築の形式と分類 ②商業建築の実例分析
第27・28回	⑫ 各種建築物の計画	①高齢者福祉施設などの分類と計画概要 ②駐車・駐輪施設などの計画概要 ③スポーツ施設などの計画概要 ④その他各種建築物の計画概要
第29・30回	3. 人と地球にやさしい建築計画 ① 高齢者・障害者に配慮した建築計画	①ノーマライゼーションの普及と展開 ②日本における関係法令の整備 ③高齢者・障害者に配慮した建築計画
第31・32回	② 地球環境に配慮した建築計画	①環境問題概観 ②環境問題に対する取り組みと「持続可能な社会」 ③資源循環型住宅と環境共生住宅 ④コンバージョンとリノベーション
第33・34回	③ 建築計画の今後	①特殊な機能を有する建築物と複合的な機能を有する建築物 ②都市機能と密接な関係を有する建築物 ③景観形成に配慮した建築計画のあり方 ④防災・減災に配慮した建築計画のあり方

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2021年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	栗山 雅之(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築・インテリアデザインの重要な構成要素である『色彩と照明』に関する知識や実践的な手法を理解した上で、それらの知識を融合して、建築やインテリアデザインの設計に活かすことを目標とする。また、この授業内容と関連する資格『色彩検定』『インテリアコーディネーター』などの取得への足掛かりとなることも期待する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 色と光	ガイダンス1. 色とは 2. 光とは
第2回	2. 色彩	1. 色の表示－1 色の種類 －2 色の三属性－3 色の混合 2. 表色 －1 XYZ表色系 －2 マンセル表色系 －3 オスワルト表色系 3. 色の効果－1 色の物理的感覚 －2 色の知覚的感覚 『カラーユニバーサルデザイン』とは／『色覚障害』とは／『色覚障害の見え方』とは 『カラーユニバーサルデザイン』に向けた取り組み／色の工夫によるカラーユニバーサルデザイン 色以外の工夫によるカラーユニバーサルデザイン／その他の配慮
第3回		4. 色彩調和 －1 配色と調和 －2 混色・色彩調和に関する歴史 －3 代表的な色彩調和論 －4 自然の秩序からの色彩調和 －5 自然から学ぶ配色－6 配色技法
第4回		5. 配色イメージ －1 色の三属性と配色イメージ －2 トーンと関係する配色イメージ
第6～7回		6. ビジュアルデザイン －1 ビジュアルデザインとは －2 グラフィックデザインと色彩 －3 パッケージデザインと色彩 －4 Webデザインと色彩 －5 ディスプレイデザイン －6 サイン計画とデザイン 7. VMD
第8～10回		8. インテリア －1 インテリアデザインと色彩 －2 インテリアの配色 －3 インテリアスタイルと色彩 －4 インテリアの素材 9. エクステリア環境 －1 エクステリア環境と色彩 －2 エクステリア環境のカラーコーディネート －3 住宅のエクステリア環境色彩 －4 住宅外観のスタイル分類 －5 住宅エクステリアにおける色彩計画の手順 －6 都市景観と色彩
第11～14回	3. 照明	1. 照明計画基礎知識 －1 照明用語 －2 色温度 －3 光の見え方 －4 照明器具の性能や特徴 －5 光源 －6 カタログの見方 －7 照明器具の種類
第15～17回		2. 照明の収まりと注意点 －1 デザインテクニックと注意点

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造・材料	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2021年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類
第3回	木質構法の特徴1	木質構法の種類、設計図書
第4回	木質構法の特徴2	木材(建築用木材 組織と性質、規格、変形)
第5回	木質構法の特徴3	木材(木質材料)
第6回	軸組工法1	軸組み工法の構成、部材名称、力の流れ
第7回	軸組工法2	基礎、地盤調査、地業
第8回	軸組工法3	軸組 ～土台、柱、桁・梁・胴差、継手・仕口
第9回	軸組工法4	小屋組 ～和小屋、洋小屋
第10回	軸組工法5	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)1
第11回	軸組工法6	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)2
第12回	軸組工法7	壁、筋交い ～概説
第13回	軸組工法8	壁、筋交い ～壁量計算1
第14回	軸組工法9	壁、筋交い ～壁量計算2
第15回	軸組工法10	床組の構成
第16回	軸組工法11	内外装 ～床、内壁、天井、外壁
第17回	軸組工法12	開口部、建具
第18回	その他木造工法	枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造1	構造形式と構造の原理、設計図書
第20回	鉄筋コンクリート構造2	コンクリート(セメント、骨材、混和材)1
第21回	鉄筋コンクリート構造3	コンクリート(セメント、骨材、混和材)2
第22回	鉄筋コンクリート構造4	コンクリート(調合、発注)1
第23回	鉄筋コンクリート構造5	コンクリート(調合、発注)2
第24回	鉄筋コンクリート構造6	鉄筋(種類と強度)1
第25回	鉄筋コンクリート構造7	鉄筋(種類と強度)2
第26回	鉄筋コンクリート構造8	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)1
第27回	鉄筋コンクリート構造9	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)2
第28回	ラーメン構造1	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ1
第29回	ラーメン構造2	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ2
第30回	ラーメン構造3	基礎、柱、梁、スラブ、壁1
第31回	ラーメン構造4	基礎、柱、梁、スラブ、壁2
第32回	ラーメン構造5	柱・梁の鉄筋量の算定1
第33回	ラーメン構造6	柱・梁の鉄筋量の算定2

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2021年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。又、2級建築士試験対策としての知識の修得も目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理 契約・仕様書 施工計画	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方 工事計画 施工計画 工程計画
第2回	施工管理 工事準備	現場 安全 材料 品質管理 申請・届出・手続き 各調査
第3回	各部工事 仮設工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
第4回	土工事 地業工事 基礎工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
第5回	鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
第6回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
第7回	コンクリート工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
第8回	鉄骨工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
第9回	組積工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
第10回	木工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
第11回	防水工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
第12回	左官工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
第13回	タイル工事 石工事	
第14回	塗装工事 建具工事 ガラス工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
第15回	内装工事 断熱工事 設備工事	給排水衛生 建築と設備の関連
第16回	各種工事 施工用語 施工機械器具	屋根工事 金属工事 揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
第17回	その他 積算 測量	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率 縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2021年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	栗山 雅之(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。また建築士試験レベルの問題に取り組み、その対策とすることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第2回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第3回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第4回		7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ 9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第5回	2. 日本近代建築史	11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第6回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第7回		3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達 5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第8回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信 9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第9回	3. 西洋建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第10回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム) 5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第11回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第12回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築 11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第13回	4. 西洋近代建築史	1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第14回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第15回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第16回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第17回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場) 9:近代建築運動(シュレーダー邸) 10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト) 11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル) 12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス) 13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2021年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	構造力学の流れ、モデル化、接合条件と支持条件、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力、モーメント、偶力
第4回	力の合成と分解1	合成と分解・計算方法
第5回	力の合成と分解2	分布荷重の合成
第6回	力のつり合い1	つりあい力算定1(平行な力)
第7回	力のつり合い2	つりあい力算定2(平行でない力)
第8回	静定構造物の反力1	反力算定(単純梁1)
第9回	静定構造物の反力2	反力算定(単純梁2)
第10回	静定構造物の反力3	反力算定(片持ち梁1)
第11回	静定構造物の反力4	反力算定(片持ち梁2)
第12回	静定構造物の反力5	反力算定(はね出し梁1)
第13回	静定構造物の反力6	反力算定(はね出し梁2)
第14回	静定構造物の反力7	反力算定(ラーメン1)
第15回	静定構造物の反力8	反力算定(ラーメン2)
第16回	静定構造物の反力9	反力算定(トラス)
第17回	静定構造物の反力10	反力算定(3ヒンジラーメン1)
第18回	静定構造物の反力11	反力算定(3ヒンジラーメン2)
第19回	静定構造物の応力1	応力概説、算定手順
第20回	静定構造物の応力2	応力算定(片持ち梁1)
第21回	静定構造物の応力3	応力算定(片持ち梁2)
第22回	静定構造物の応力4	応力算定(片持ち梁3)
第23回	静定構造物の応力5	応力算定(単純梁1)
第24回	静定構造物の応力6	応力算定(単純梁2)
第25回	静定構造物の応力7	応力算定(単純梁3)
第26回	静定構造物の応力8	応力算定(ラーメン1)
第27回	静定構造物の応力9	応力算定(ラーメン2)
第28回	静定構造物の応力10	応力算定(ラーメン3)
第29回	静定構造物の応力11	トラス概説、算定手順
第30回	静定構造物の応力12	応力算定(片持ち梁式トラス1)
第31回	静定構造物の応力13	応力算定(片持ち梁式トラス2)
第32回	静定構造物の応力14	応力算定(単純梁式トラス1)
第33回	静定構造物の応力15	応力算定(単純梁式トラス2)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2021年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、そのうえで演習を実施する。将来の建築士試験に向けた下地づくりができるよう、テキストのほかに法令集を使用し、演習においては実際の建築士試験問題を取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回		法令集の使い方、法令用語の読み方
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回	高さ制限	絶対高さ制限、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限
第16回	確認申請・手続	確認申請、完了検査、中間検査
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2021年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	大和 賢次（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築計画に必要な環境及び建築基準法・消防法・ビル管理法・建築確認申請等の解説。 自分で設計した建物に給排水・換気・照明器具等設備設計図の作成を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築設備	建築設備に関する概要
第2回～ 第4回	2. 給水設備	給水方式、給水使用量、用語の解説、給排水設備機器、使用量等の調査
第5回～ 第6回	3. 換気設備	換気方式、建築基準法に適合する計算式等の基本を学ぶ
第7回～ 第9回	4. 空調設備	冷暖房方式、冷暖房負荷、結露の原因等の概要 冷暖房設備の負荷計算書の作成
第10回～ 第12回	5. 電気設備	電気幹線・照明・テレビ・インターホン・電話等に関する概要 照明の照度計算
第13回	6. 熱源機器	化石エネルギー・自然エネルギー等の概要
第14回	7. 防災設備	消火設備・火災報知設備・消防法等に関する基本
第15回～ 第16回	8. 建築設備図面	簡単な建築設備図の作成 (各自のパソコンで作成)
第17回	9. 資格試験問題	練習問題・解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(前島パース事務所を主宰し、30年以上の実務経験を持つ教員が担当する科目となる)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着彩までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デザイン力を養う。
第4～5回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第6～15回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着彩を行う。
第16～25回	4、2点透視図による作図	①2点透視図で簡単な立体から建築外観パースの作図及び着彩を行う。
第26～36回	5、店舗併用住宅の着彩パースを描く	①設計Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。
第37～47回	6、ショップの着彩パースを描く	①ショップデザインⅠと連動し、自分がデザインしたショップの着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。
第48～68回	7、商業施設の着彩パースを描く	①設計Ⅱ(進級制作)と連動し、自分がデザインした商業施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩まで一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ビジュアルデザイン	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」の操作習得を通し、商業デザイナーとして効果的なビジュアル計画を構築する能力を身に着ける。また、デジタルツールを横断的に使用し、計画・提案を他者への確に伝えるプレゼンテーションスキルの習得を目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、ショップデザインⅡの課題と連動しながら、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得をする。また、今までに習得したデジタルツールを横断的に活用し、ポートフォリオの作成を通じてプレゼンテーションスキルの向上を図る。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回～	2. ヴィジュアルデザインの概要	・商業デザインにおけるヴィジュアルデザインの役割と領域
第5回～	3. ロゴデザイン	・Illustratorの基本操作 ・ロゴデザインの考え方 ・Illustratorを活用したロゴデザイン
第11回～	4. サインデザイン	・サインデザインの考え方・計画 ・商業施設におけるサイン計画事例 ・Illustratorを活用したサインデザイン
第17回～	5. 広告・パッケージデザイン	・広告・パッケージデザインの考え方 ・広告物のレイアウトについて ・Photoshop、Illustratorを活用した広告・パッケージデザイン
第28回～	6. ヴィジュアルプレゼン(1)	・Photoshopの基本操作 ・背景、添景、人の合成 ・手描き風写真加工
第35回～	7. ヴィジュアルデザイン実践	・SDⅡ課題に連動
第41回～	8. ヴィジュアルプレゼン(2)	・プレゼンテーションの基礎 ・プレゼン資料のレイアウト ・プレゼン資料のデザイン(トーン&マナー)
第47回～	9. ヴィジュアルプレゼン実践	・ポートフォリオの作成 ・卒業制作パワーポイントの作成
第61回～ 第68回	10. ヴィジュアルデザイン実践	・卒業制作に連動

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、主に木造住宅の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	建築製図Ⅰの目的と概要、図面の見方、その他基本的注意事項
第2・3回	2. 基礎製図	用具の使い方・線の練習
第4・5回	3. 木造住宅	求積図・案内図／一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第6・7回		配置図・平面図1・100／配置図の目的と描き方・配置の意味 敷地の形状・高低差・方位・敷地境界線までの距離
第8・9回		1・2階平面図1・100／平面図の読み方・描き方の説明
第10・11回		1・2階平面図1・100／柱・壁・窓・出入口・・・などを理解する
第12・13回		1・2階平面図1・100／真壁・大壁の違いを理解する
第14・15回		1・2階平面図1・100
第16・17回		立・断面図1・100／立断面図の見方・描き方の説明
第18・19回		立・断面図1・100／床高・天井高・軒高・内法高・・・などの意味
第20・21回		立・断面図1・100
第22・23回		立・断面図1・100
第24・25回		矩計図1・20／矩計図の見方・描き方の説明
第26・27回		矩計図1・20／各階の基準寸法の理解・軒の出・窓の描き方
第28～30回		矩計図1・20／各階の詳細部分の理解・表現の描き方
第31～34回		矩計図1・20／まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	前半は課題文の読取り方・手順を体験し、エスキスの進め方・考え方を習得する。 後半は作図練習を行い、制限時間内に精度の高い図面を描き上げる作図力の習得を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の概要、授業の目標・資料・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. エスキスの基本	エスキスの概要,課題文の読取り方の説明
第3・4回		<ul style="list-style-type: none"> ●木造2階建て専用住宅及び併用住宅のエスキスを行う ・4.55mmのグリッドを利用した、幅1/100・1/200における長さ・広さの考え方の説明。 ・㎡指定の居室及び収納を4.55mmグリッド上で表現する手法を実習。
第5・6回		<ul style="list-style-type: none"> ・指定された水廻り等の所要室を、指定されたスペースの中で納める手法を実習。 ・敷地境界線からの空間の目安を説明。
第7・8回		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペース、駐輪スペースの大きさを説明。 ・敷地の有効利用を考慮した建物配置の実習。
第8・9回		<ul style="list-style-type: none"> ・各階の床面積の計算手法、延べ面積の計算手法、省略の規定を説明。
第10・11回		<ul style="list-style-type: none"> ・設計メモの描き方を説明・実習。
第12・13回		<ul style="list-style-type: none"> ・面積指定されていない居室の想定面積説明。
第14・15回		<ul style="list-style-type: none"> ・指定された延べ面積で納めるエスキスにするための、各階の算定方法の説明・実習。
第16・17回		エスキース課題①～③
第18・19回		エスキース課題④～⑤
第20～21回	3. 部分詳細図	部分詳細図の概要
第22～25回	作図演習	<ul style="list-style-type: none"> ●木造2階建ての建物の部分詳細図(断面)を作図し、時間内で精度の高い図面を作図する 部分詳細図講義①—基礎廻り ・全体の基準線と寸法、次に基礎廻りの作図手順を説明。
第26～29回		<ul style="list-style-type: none"> 部分詳細図講義②—屋根廻り ・4寸勾配の屋根部分の作図手順を実演、実習。
第30～32回		<ul style="list-style-type: none"> 部分詳細図講義③—2階床廻り ・2階床廻り部分の作図手順を説明。
第33～34回		最終確認・まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・45分間で精度の高い図面を作図する試験を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ショップデザイン I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(自らのデザイン事務所を18年主宰している、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	立地周辺の調査・分析、施設条件の把握、ターゲットの設定、ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプトの策定から平面図・天井伏図・展開図(断面図)・立面図(ファサード)、パース・模型作成に至る一連の実践的デザイン作業を行い、商空間デザイナーとしての基本的なスキルを身に付けることを目的とする。その集大成として、商業施設内の1テナント区画を設定し、そこにふさわしい業態の小規模店舗を設計する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2～9回	2. 物品販売業態の店舗設計	①物品販売業態の店舗リサーチ：レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、商品陳列台 ③ロゴデザインとサイン計画 成果物：レイアウト計画/ファサード計画案/商品陳列台スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第10～17回	3. 飲食サービス業態の店舗設計	①飲食サービス業態の店舗リサーチ：レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、アプローチ部分、着座方式別のプランニング ③カウンターの形状、客席に付帯する施設 ④ロゴデザインとサイン計画 成果物：レイアウト計画/ファサード計画案/店舗内スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第18～19回	4. 小規模店舗設計の概要	概要・教材・スケジュール・目標などを説明
第20～21回	5. 調査・分析	①商業施設内及び周辺店舗リサーチ
第22～24回	6. プログラミング(業態設定)	①ターゲット、MD構成などの設定
第25～29回	7. プランニング(イメージ・コンセプト)	①プランニング ②コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第30～36回	8. デザイン	①平面・展開・什器などのスケッチ等作成
第37～47回	9. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	①ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプト ②平面図・天井伏図・展開図・什器図 ③パース・模型など
第48～51回	10. プレゼンテーション(発表)	①成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーション (自分の考え方を整理し、落ち着いた発表できるプレゼンテーション能力が必要とされる) →各作品に対する講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ショップデザインⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山 雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「企業PR施設」の計画を行うとともに、立地やマーケティングの視点から施設業態を考え、ファサードデザインからインテリアデザイン、さらに家具什器・照明・サイン計画までを行う。 立地周辺の調査・分析、施設条件の把握、ターゲットの設定、業態コンセプト・デザインコンセプトの策定から平面図・天井伏図（照明計画）・展開図（断面図）・立面図（ファサード）、什器図、パース・模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	1. 「企業PR施設」計画～インテリアデザインの	①課題説明、事例研究
第3・4回	2. 調査・分析	①類似施設及び競合施設リサーチ
第5～7回	3. 定)	①ターゲット、業態ポジショニングなどの設定
第8～12回	4. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	①プランニング ②コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第13～19回	5. 画)	①平面・展開・什器などのスケッチ等作成
第20～30回	6. ビジュアライゼーション視覚化（図面・模型作成）	①施設コンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプト ②平面図・天井伏図・展開図・什器図 ③パース・模型・CGなど
第31～34回	7. プレゼンテーション（発表）	①成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。（自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼンテーション能力が必要とされる）各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計 I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2021年度：1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	細村 研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の住宅系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、都市型戸建て住宅、及び店舗併用住宅を設計する。店舗併用の場合、店舗と住宅という異なる機能・用途をひとつの建築として破綻なくまとめ、デザインしていくことが重要なポイントとなる。計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、施主のライフスタイルやライフサイクルへの配慮、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. 住宅設計の概要	ガイダンス、住宅設計の概要説明
第3・4回	2. 住宅設計の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第5～7回	3. 住宅設計の練習課題	短期設計①
第8～10回	〃	短期設計②
第11回	4. 店舗併用住宅の設計	課題説明
第12・13回	5. 調査・分析	与えられた複数の計画地及び周辺環境リサーチ
第14・15回	〃	法的条件による建築ボリュームの把握
第16～18回	6. プログラミング（設計条件の設定）	計画地、クライアントプロフィールなどの条件設定、施設構成、機能の設定
第19～24回	7. プランニング （イメージ・コンセプト）	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第25～34回	8. デザイン （建築・インテリア計）	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第35～43回	9. ビジュアライゼーション 視覚化（図面・模型作成）	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第44～47回	10. プレゼンテーション（発表）	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第48～51回	11. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(110時間)	開講・履修期	2021年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	細村 研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の商業系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、複合商業施設を設計する。計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。物販・飲食・サービス業種などを含む複合商業施設についての考察と一連のフローに基づく設計演習を行い、立地・敷地条件等に対する判断力、施設構成や空間構成に至る柔軟な発想力とデザイン力を培うことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 複合商業施設の概要	ガイダンス、商業施設設計の概要説明
第2・3回	2. 複合商業施設の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第4回	3. 複合商業施設の設計	課題説明
第5・6回	4. 調査・分析	与えられた計画地をリサーチ、類似施設調査
第7・8回	5. の設定)	法的条件チェック、施設構成、機能の設定
第8～11回	6. (イメージ・コンセプト構築)	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第12～15回	7. (建築・インテリア計画)	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第16～28回	8. 視覚化 (図面・模型作成)	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第29～32回	9. プレゼンテーション (発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第33・34回	10. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅲ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2021年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	西脇 祐輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	首都圏、及び近郊にある計画地を自由に設定し、まちづくりの視点を持った施設を企画・設計する。計画地とその周辺の調査・分析（地域の課題）、法的条件による建築ボリュームの把握、施設機能の設定、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似施設の見学など校外授業も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. ガイダンス、複合商業施設の概要	① 複合商業施設の概要説明、事例研究
第3・4回	2. 複合商業施設の考え方	① まちづくりの視点によるコンセプト／プランニング／デザインの解説
第5回	3. 複合商業施設の設計	① 課題説明
第6～8回	4. 調査・分析	①② 与えられた複数の計画地をリサーチ 類似施設調査
第9・10回	5. プログラミング（設計条件の設定）	①② 法的条件チェック 施設構成、機能の設定
第20～29回	6. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	①② ~~~~~ コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第30～39回	7. デザイン（建築・インテリア計画）	① 平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第40～49回	8. ビジュアライゼーション 視覚化（図面・模型作成）	①②③ コンセプト・計画概要・配置図 各階平面図・立面図・断面図 外観パース・内観パース・模型
第50～51回	9. プレゼンテーション（発表）	① 成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。 （自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる）各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、オペレーティングシステムとの関係について学んだ上で、製図の基礎知識とCADの総合的な知識を融合し、建築やインテリアデザインの設計製図に活用することを目指す。1年次ではCADソフトVector Worksによって建築及びインテリアの図面を描く。設計課題にリンクし図面を描けるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. コンピューター 基礎概論	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働き
第3回～ 第6回～	3. VectorWorks 基本操作	OS/Mac概論(Macの画面構成/基本操作)
第8回～		OS/Mac概論(Macの画面構成/基本操作)
第12回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～		VectorWorksの基本環境設定と操作の基本 VectorWorksの基本操作の練習1 VectorWorksの基本操作の練習2 VectorWorksの基本操作の練習3
第21回～ 第24回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	4. VectorWorks 基礎製図練習	VectorWorksによるCAD図面作成1(平面図概要) VectorWorksによるCAD図面作成2(平面図の作成1) VectorWorksによるCAD図面作成3(平面図の作成2) VectorWorksによるCAD図面作成4(平面図の作成3) VectorWorksによるCAD図面作成5(平面に関する建具図作成) VectorWorksによるCAD図面作成6(立面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成7(断面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成8(図面の総合学習) VectorWorksによるレイアウトとデザイン
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～	5. VectorWorks 製図練習	CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (作図の為の基礎知識) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (家具図) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図2) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図2)
第60回～ 第63回～ 第66回～ 第68回	6. プレゼンテーション 総合演習	CADを利用したプレゼンテーション総合演習1 CADを利用したプレゼンテーション総合演習2 CADを利用したプレゼンテーション総合演習3 プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、オペレーティングシステムとの関係について復習した後、ArchiCADを学習しBIMによる設計システムを理解する。続けてVectorWorksの3次元機能を学習しBIMのトータルシステムを理解する。後半ではAutoCADで建築図面の作成を習得し基本CAD・BIMシステムを理解できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD・BIM図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. コンピューター 応用概論	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働き
第3回～ 第6回～	3. ソフトインストール	各アプリケーションソフトのインストール
第8回～	4. ArchiCAD 基本操作	ArchiCAD基本操作1 ArchiCAD基本操作2
第12回～ 第15回～ 第17回～	5. ArchiCAD 作図練習	ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習1) ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習2) ArchiCAD 建築図面作成(平面・立面・断面・3次元の関係性の学習)
第19回～ 第21回～ 第24回～	6. ArchiCAD プレゼンテーション	ArchiCAD 建築図面作成(3次元のレンダリングシステムの学習) ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習①) ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習②)
第28回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～	7. VectorWorks 3D	モデリングシステムの基本1 モデリングシステムの基本2 レンダリングシステムの基本1 レンダリングシステムの基本2
第37回～ 第39回	8. BIM・3D-CADのまとめ	BIMシステムのまとめ 3D-CADシステムのまとめ
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～ 第60回～	9. AutoCAD 基本操作 10. AutoCAD 作図練習	AutoCADの環境設定と基本能力確認 CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (作図の為の基礎知識) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (家具図) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図2) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図2)
第63回～ 第66回～ 第68回	11. AutoCAD まとめ 12. BIM・CADシステムのまとめ	応用コマンド演習1(応用編集コマンド・作図コマンド) 応用コマンド演習2(まとめ) 総合的にBIM・CADシステムの活用・応用方法を理解する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、3DソフトSketchUPのモデリング能力を学習する。またレンダリング及びムービーではレンダリングソフトLumionを学習し総合的表現能力を習得する。また、Photoshop、Illustrator等のグラフィック能力を習得する。最終的に設計課題とリンクして3次元モデルでの表現方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使いこなすことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、Photoshop、Illustrator、等のグラフィックソフトを学習することにより表現方法の充実を計る。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. コンピューター 基礎概論	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働き
第3回～ 第6回～ 第8回～	3. SketchUp 基本操作	各種ソフトのインストール PowerPoint基礎(PowerPointIの画面構成／基本操作) SketchUpのインストール
第12回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～		SketchUpの基本環境設定と操作の基本 SketchUpの基本操作の練習1 SketchUpの基本操作の練習2 SketchUpの基本操作の練習3
第21回～ 第24回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回		4. SketchUp モデリング SketchUpによる住宅のモデリング基本1 SketchUpによる住宅のモデリング基本2 SketchUpによるプレゼンテーション1 SketchUpによるプレゼンテーション2 SketchUpによるプレゼンテーション3 SketchUpによるムービー作成
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～	5. Photoshop、Illustrator	Photoshop、Illustrator基本操作1 Photoshop、Illustrator基本操作2 Photoshop、Illustrator基本操作3
第60回～ 第63回～ 第66回～ 第68回	6. Lumion 基本操作	Lumionの基本操作1 Lumionの基本操作2 Lumionの基本操作3
	7. Lumion レンダリング	Lumionのレンダリングとプレゼンテーション1 Lumionのレンダリングとプレゼンテーション2 Lumionのレンダリングとプレゼンテーション3
	8. プレゼンテーション 総合演習	3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習1 3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習2 3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習3 プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	3D・CGⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2021年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、3D及びBIMソフトのモデリング能力を応用してレンダリング技能を学習しムービでのプレゼンテーション能力を総合的に習得する。最終的に設計課題とリンクして3次元モデルでの表現及びプレゼンテーション方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使いこなすことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、グラフィックソフトを学習することにより表現方法の充実を計る。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. SketchUpの確認・復習 応用操作	3D・CGⅠにて学習した事項を確認・復習を行う
第3回～ 第6回～	SketchUpの応用	SketchUpの応用ツールの学習と実習1 SketchUpの応用ツールの学習と実習2
第8回～ 第12回～	3. Twinmotion/Lumion 応用ツールの学習	Twinmotionの応用ツールの学習と実習1 Twinmotionの応用ツールの学習と実習2
第15回～ 第17回～ 第19回～		Lumionの応用ツールの学習と実習1 Lumionの応用ツールの学習と実習2 Lumionの応用ツールの学習と実習3
第21回～ 第24回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	4. BIMソフトとの連携	ArchiCADとの連携操作の学習と実習1 ArchiCADとの連携操作の学習と実習2 ArchiCADとの連携操作の学習と実習3 ArchiCADとの連携操作の学習と実習4 ArchiCADとの連携操作の学習と実習5 ArchiCADとの連携操作の学習と実習6
	5. Photoshop、Illustrator Premiere Pro との連携	Photoshop、Illustrator、の復習と実習 Premiere Proの基本操作と実習1 Premiere Proの基本操作と実習2
第41回～ 第44回～ 第47回～	6. 設計課題と連携1	各種ソフトを利用して横断的に設計課題と連携しプレゼンテーション能力を習得 プレゼンテーション方法の学習と実習1 プレゼンテーション方法の学習と実習2
第50回～ 第53回～ 第56回～	7. 設計課題と連携2	設計課題と連携したモデリング・レンダリングの実習1 設計課題と連携したモデリング・レンダリングの実習2 設計課題と連携したモデリング・レンダリングの実習3
第60回～ 第63回～ 第66回～ 第68回	8. 設計課題と連携3 総合演習	3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習1 3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習2 3D・CGを利用したプレゼンテーション総合演習3 プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	商空間課題研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(140時間)	開講・履修期	2021年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にす。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～54回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第55～60回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第61～70回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	商空間課題研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(140時間)	開講・履修期	2021年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山 雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にす。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～54回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第55～60回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第61～70回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デザイン研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関して、1年次の実技科目に関連する事前調査及びまとめなどを行う。建築インテリアに関して十分に考え、作業する時間をつくることで、優れた作品を生み出すことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	調査・研究、及びとりまとめの実習などを主とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	① ショップデザインⅠのための調査	ショップデザインⅠの調査資料の作成を行う。
第4～5回	参考作品のリストアップ	過去作品や雑誌掲載作品等をリストアップし研究する。
第6～8回	ショップデザインⅠの企画書作成	ショップデザインⅠの企画書の作成を行う。
第9～11回	ショップデザインⅠのエスキース作成	ショップデザインⅠのエスキースの作成を行う。
第12～17回	制作作業	企画書・エスキースを踏まえた制作作業を行う。
第18～19回	② 進級制作のための調査	進級制作の調査資料の作成を行う。
第20～21回	参考作品のリストアップ	過去作品や雑誌掲載作品等をリストアップし研究する。
第22～24回	進級制作の企画書作成	進級制作の企画書の作成を行う。
第25～29回	進級制作のエスキース作成	進級制作のエスキースの作成を行う。
第30～34回	制作作業	企画書・エスキースを踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デザイン研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山 雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関して、2年次の実技科目に関連する事前調査及びまとめなどを行う。建築インテリアに関して十分に考え、作業する時間をつくることで、優れた作品を生み出すことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	調査・研究、及びとりまとめの実習などを主とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	① ショップデザインⅡのための調査	ショップデザインⅡの調査資料の作成を行う。
第4～5回	参考作品のリストアップ	過去作品や雑誌掲載作品等をリストアップし研究する。
第6～8回	ショップデザインⅡの企画書作成	ショップデザインⅡの企画書の作成を行う。
第9～11回	ショップデザインⅡのエスキース作成	ショップデザインⅡのエスキースの作成を行う。
第12～17回	制作作業	企画書・エスキースを踏まえた制作作業を行う。
第18～19回	② 卒業制作のための調査	卒業制作の調査資料の作成を行う。
第20～21回	参考作品のリストアップ	過去作品や雑誌掲載作品等をリストアップし研究する。
第22～24回	卒業制作の企画書作成	卒業制作の企画書の作成を行う。
第25～29回	卒業制作のエスキース作成	卒業制作のエスキースの作成を行う。
第30～34回	制作作業	企画書・エスキースを踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	5単位(178時間)	開講・履修期	2021年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	西脇 祐輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	2年間の集大成として各学生が商空間に関わる様々なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進めます。テーマに関しての情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムに対しての的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力・造形力、プレゼンテーションにおける表現力等を培うことを目標とします。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～4回	1. ガイダンス、テーマ設定	① 卒業制作の目的・テーマ設定に関する考え方・昨年度のテーマ事例・今後のスケジュール・作業内容についての概要説明
第5～10回	2. 主要テーマに関する基礎講義	① 都市における商業機能と場・空間について考える。都市的な視点からの街づくりから複合商業施設、市場、路面店、露天商（屋台）まで様々なスケールでの可能性を探る
第11～15回	3. リサーチ（調査・分析）	①② テーマに関する資料収集 計画地・周辺環境の調査・分析
第16～26回	4. プログラミング（設計条件の設定）	①②③ 敷地設定・敷地条件確認 敷地規模設定・ボリュームチェック 施設構成（平面・タテ）・ターゲット設定
第27～39回	5. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	①②③④⑤⑥ イメージスケッチ・イメージ写真 コンセプト・キーワード設定 配置計画・ゾーニング計画 スペース計画・（各室用途・規模） 構造計画 動線計画・基本レイアウト計画
第40～53回	6. デザイン（建築・インテリア計画）	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ デザインスケッチパース（全体・部分） 平面計画（各階） 立面計画（4面） 断面計画（2面） 配置計画（敷地+屋根伏せ） 色彩計画（内外装仕上げ） インテリア計画（家具・造作） 外構・緑化計画 面積表
第54～80回	7. ビジュアライゼーション（視覚化（図面・模型作成））	①②③④⑤⑥ 設計主旨・イメージ写真 平面図 立面図 断面図 内観パース・外観パース 模型
第81～89回	8. プレゼンテーション（発表）	① 成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。（自分の考え方を整理し、落ち着いた発表できるプレゼン能力が必要とされる） 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週